

横芝の碑 (その三十九)

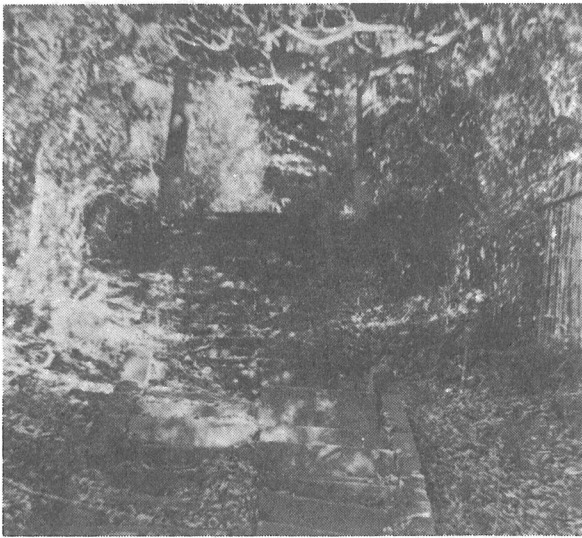
谷台 鎮守様の石段

旧大総村谷台の鎮守様は、稻荷神社で、集落の背後を囲っている小高い丘の上に建っています。

牛熊方面から田圃道を通り、栗山川の支流である高谷川の堰を越えると谷台の集落の入口です。その入口から、すぐ左に入る砂利の坂道がありますが、これから約二十メートルが鎮守様の参道なのです。二十メートル程上りますと、道は二つに分れて、左はそのままの砂利道が続いて農道になり、右

側は石畳です。そして、石畳の先は鎮守様の石段になっています。

石段は累々と続いて、その両側は押迫のように樹木が生い繁り、遙か石段の果つる彼方に、社殿の屋根が僅かに明るさを見せているといった、たまたまいで、此々に立った一瞬は、すぐ隣に人里があるということをお忘れしなう位です。この石段は、幾つかの休み場を持っていますが、総段数は一一五段もあり、石段の処々に、宝曆、



① 115段を数える谷台鎮守様の石段

文化等の年号や、氏子中等の文字が刻まれています。恐らくこの石段は、氏子の皆さんが奉納したもので、それも一回でなく、何回にも部分的な奉納の末に完成したものと思われまます。

谷台の傍を流れている高谷川は谷台堰ができるまでは、多古牛



② 見事な彫刻のある稻荷神社社殿

そうした農民である氏子の皆さんは、自分達の手で崩してしまつた結果、荒廃して、崖の様になっている鎮守様の丘を見る毎に、物体ないと考え、力を併せて築いたのがこの石段であると思ひます。

石に刻まれている年号の、宝曆から文化、となりますと、その間

の向って右側は民家の森です。

石段はすっかり苔むして、その上に落葉が積っていました。積石の形や、段の水平も平等でないのは、僅かの職人を先達に、氏子の皆さんが手伝つたり、或いは自分達の力で工築されたであろうこと等を考えると、何か昔の人の面影がこの枯葉に覆われた石段の間に浮んでくる様に思われまます。

尚写真の2は稻荷神社々殿の調刻ですが、余り見事なので掲載させていただきました。またこの石段の中腹の休場には、延宝、(一六七三ー一六八一)宝曆(一七八九ー一八〇一)等の年号が刻まれた庚申塔や、地区老人クラブ建立という三峰神社石造りの社殿等も建っています。

(本稿取材に当り、氏子である谷台の鈴木 寛氏及萩原和 一郎氏の御協力を戴いたことを書添えます) (養護老人ホーム小沢所長寄稿)

尾村等との取水問題が起きる等のことが多く、時には、流水遮断や流水変更等の工事も行なわれたこともあったという話です。そして、当時の治水工事には、多くの土のうが使用された筈です、多分、この神社の建つていた丘の土も、またその土のうに用いられたであろうことは当然だったといえます。いわば、当時の農民は、鎮守様の山土のお陰を頂戴した訳です。

の約五十年にわたって、子から孫へと引継いで奉納を続けた谷台の氏子の皆さんの心は、石段の中や積石の大きさも異なつたまま苔むしている形にも、切々として滲み出る真心が感じられます。写真1はその石段で、中央上端に少し明るく見えているのが神社の屋根で、向って右側に見える竹垣は民家の裏庭に接しています。両側から覆い被る様に見える樹木

